

高次の導関数

Jacques Garrigue, 2019 年 6 月 4 日

n 次の導関数 関数 $y = f(x)$ が区間 I で微分可能ならその導関数 $f'(x)$ が定義される. 同様に関数 $f'(x)$ が I で微分可能なら, $f(x)$ の 2 次の導関数 $f''(x)$ が定義される. 微分可能である限りそれが繰り返される. 元の関数を $f^{(0)}(x) = f(x)$ とし, 順番に $f^{(1)}(x) = f'(x)$, $f^{(2)}(x) = f''(x)$, $f^{(n+1)}(x) = \{f^{(n)}(x)\}'$. n 次の導関数の表記は様々.

$$y^{(n)}, f^{(n)}x, \frac{d^n y}{dx^n}, \frac{d^n f}{dx^n}$$

例題 $f(x) = x^3$ の全ての導関数を与えよ.

例 $\frac{d^n \sin x}{dx^n} = \sin(x + n\frac{\pi}{2})$

例 $\frac{d^n e^x}{dx^n} = e^x, \frac{d^n a^x}{dx^n} = (\log a)^n a^x$.

D^n 級と C^n 級 関数 $f(x)$ が n 回微分可能なら, $f(x)$ が D^n であるという. また D^n な $f(x)$ について $f^{(n)}(x)$ が連続なら, $f(x)$ が C^n で n 回連続微分可能だという. 区間 I で n 回微分可能な関数の集合は $D^n(I)$ で, n 回連続微分可能な関数の集合が $C^n(I)$. 定義から $C^n(I) \subset D^n(I)$ で, 微分可能性の条件から $D^{n+1}(I) \subset C^n$. また, 無限回微分可能な関数を C^∞ という.

例 $x^n, \sin x, a^x$ ($0 < a$) はそれぞれ $C^\infty(\mathbf{R})$ である.

例 $f(x) = x|x|$ は C^1 だが D^2 ではない.

曲線の凹凸 $C : y = f(x)$ が $P(a, f(a))$ で接線 l をもつとする. P 以外で C の点が l の上なら, C が下に凸. P 以外で C の点が l の下なら, C が上に凸. P より左の C の点が l の下で, P より右の C の点が l の上なら, またはその逆のとき, P が C の変曲点.

定理 2.2.1 $f''(x)$ が a で連続とする. $f''(a) > 0$ ならば, $C : y = f(x)$ が点 $P(a, f(a))$ で下に凸 ($f''(a) < 0$ ならば上に凸). $f''(a) = 0$ で $f''(x)$ が a の前後で符号が変わるなら P が C の変曲点.

定理 2.2.2 $f'(a) = 0$ かつ $f''(x)$ が a で連続とする. $f''(a) > 0$ ならば $f(a)$ は極小値, $f''(a) < 0$ ならば $f(a)$ は極大値.

定理 2.2.3 $f(x)$ が $[a, b]$ を含む开区間で 2 回微分可能で, $f(a) < 0 < f(b)$ かつ $\forall x \in [a, b], f'(x) > 0 \wedge f''(x) > 0$. さらに単調性より $f(x) = 0$ が $[a, b]$ でただ 1 つの解 α をもつ.

$$c_1 = b, \quad c_{n+1} = c_n - \frac{f(c_n)}{f'(c_n)}$$

が単調減少で α に収束する.

定理 2.2.4 (Leibniz の公式) 関数 f, g が开区間 I で n 回微分可能ならば, 積 fg も $D^n(I)$ で,

$$(fg)^{(n)} = \sum_{k=0}^n \binom{n}{k} f^{n-k} g^{(k)} = f^{(n)} g + n f^{(n-1)} g' + \dots + n f' g^{(n-1)} + f g^{(n)}$$

問題の解答

2.2.2

$$(1) f'(x) = \frac{4x}{(x^2+1)^2} \text{ なので, } f'(0) = 0, \forall x < 0, f'(x) < 0, \forall x > 0, f'(x) > 0.$$

$f(x)$ は連続で, $(-\infty, 0]$ で単調減少, $[0, \infty)$ で単調増加なので, $x = 0$ で極小値 -1 があるのみ.

$$(2) f'(x) = 1 - \frac{x}{\sqrt{1-x^2}}, \quad |x| < 1$$

$$f'(x) = 0 \Leftrightarrow 1 = \frac{x}{\sqrt{1-x^2}} \Leftrightarrow 1 - x^2 = x^2 \ (x \geq 0) \Leftrightarrow x = \frac{\sqrt{2}}{2}$$

$f(x)$ は $[-1, 1]$ で連続で, $\forall x \in (-1, \frac{\sqrt{2}}{2}), f'(x) > 0, \forall x \in (\frac{\sqrt{2}}{2}, 1), f'(x) < 0$ なので, $[-1, \frac{\sqrt{2}}{2}]$ で単調増加, $[\frac{\sqrt{2}}{2}, 1]$ で単調減少で, $x = \frac{\sqrt{2}}{2}$ で極大値 $\sqrt{2}$, $x = -1$ と $x = 1$ で極小値 -1 と 1.

2.2.3

$$(4) \lim_{x \rightarrow 0} \frac{x^2}{1+x-e^x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{2x}{1-e^x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{2}{-e^x} = 2$$

$$(5) \lim_{x \rightarrow 0} \frac{x - \sin^{-1}x}{x - x \cos x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 - (1-x^2)^{-1/2}}{1 - \cos x + x \sin x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{-x(1-x^2)^{-3/2}}{2 \sin x + x \cos x} \\ = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{-(1-x^2)^{-3/2} - 3x^2(1-x^2)^{-5/2}}{3 \cos x + x \sin x} = -\frac{1}{3}$$

$$(9) \lim_{x \rightarrow \infty} x^2 \log \left(1 + \frac{a}{x^2+x} \right) = \lim_{x \rightarrow \infty} -\frac{x^3 - a \frac{2x+1}{(x^2+x)^2}}{2 \frac{a}{x^2+x}} = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x^3}{2} a \frac{2x+1}{(x^2+x+a)(x^2+x)} = a$$

宿題 2.3.1, 2.3.2, 2.3.3

中間テスト 6月18日